

東北大学環境報告書 2010 に対する評価

東北大学環境報告書評価委員会

様々な環境関連データが収録された本報告書は、大学の環境に対する取り組みを内外に発信する媒体として良くまとまっている。報告書の総論と各論の対応が年々改善され、東北大学の取組が読み取り易くなっている。また丁寧かつ簡潔な表現になっており、達成度の表示が具体的になり、文章も読みやすくなってきている。昨年度版と比べると、本評価委員会のコメントに従ったものを含めて随所に修正がなされ、新しいコンテンツも追加されてボリュームが 4 ページ増えるなど、質・量ともに改善している。本報告書は、データの開示と適正な評価分析に努めており、その内容は事業所の報告義務を十分に果たしているものとして評価したい。本年度は全体的にかなりのボリューム感が増した印象だが、一方、「囲み記事」や「東北大学植物園の希少植物の紹介」など、読者を飽きさせない工夫もなされている。今後、本報告書がさらに充実し、東北大学の環境マネジメントに活用されることを期待したい。委員会としてのコメントを以下に箇条書きするので、編集において参考にして頂きたい。

- 1) 総論で掲げた環境目標と各論の実施状況の対応を一まとめにしたのが p 9 の表 1-3 で、報告書を総括する重要なまとめである。この表に対する昨年からの委員会からの要望に応じて改善され、わかり易くなっているが、一方では目標分類がやや大づかみになったためか関連掲載頁が省略されて、対応関係がつかみ難くなったように感じられる。
- 2) p.1 および p.4 に、井上プランについての記述はあるが、具体的には環境関連のアクションプランの説明がない。環境関連の項目が記載されれば、アクションプランが理解できて読みやすくなるのではないかと。
- 3) 各論の目次をみると、2 章および 3 章は節が 1 節しかなく、1 章および 4 章の節の構成に比べバランスが取れていないと思われる。この点を考慮願いたい。
- 4) 本報告書は独立の立場から評価レビューを行っているという記載があるが、これをより具体的に理解してもらうために、本委員会に学外の方も委員として委嘱していることについての記述があっても良いのではないかと。